

## (4) 沼津市教育委員会

---

### 1 指定校への支援内容

#### (1) 令和7年度研修計画の共有

- ① 年間研修計画の作成、資料提供等情報共有
- ② 校内研修、中学校区合同研修に向けての支援

#### (2) 校内研修、中学校区合同研修への支援（校長・教頭との連絡、報告等）

- ① 6月23日（月）第三校区小中一貫プロジェクト合同研修会
  - ・授業公開（5校時） 事後研修（全体研修/分科会）
  - ・第三中学校の教員が授業公開し、事後研修では全体の中で沼津市教委学校教育課河村係長から、第三中の研修テーマ「子供の問いを引き出す学習課題の探究」について、子供が問いを持つこと、そのための手立てについて、沼津市の授業づくり資料「自ら」に照らして講話した。その後、公開授業を参観した教員のグループで分科会を行い、最後に静岡教育事務所勝又教育主査から講評をいただいた。
- ② 7月28日（月）第三校区小中一貫プロジェクト合同研修会
  - ・講演（創価大学教職大学院教授 渡辺秀貴氏） グループワーク
  - ・児童生徒一人一人が自ら問いをもち、協働しながら探究する力を育む授業づくり、学校づくりをするために、「枠にはめる教育でなく、子供自らが判断する教育」「やらなきゃいけない学校からやりたい学校」へ教師がマインドを切り変えていくことの大切さについて講演いただいた。
- ③ 10月14日（火）第三校区小中一貫プロジェクト合同研修会
  - ・講義（静岡大学 塩田真吾准教授）
  - ・塩田准教授から「ICT活用と探究を充実させるための情報活用能力の育成」という題で講義をいただいた。情報活用能力のイメージや子供が問いをもって探究的に学ぶプロセス、探究で活用できる生成AIの活用について教えていただいた。

### 2 研究成果等の周知について

#### (1) 沼津市内の学校への周知

- ① 11月12日（水）沼津市校長会
  - ・調査研究事業の中間報告をシンポジウム形式で行った。山崎校長、渡邊前校長、加藤教務主任、江島第三学年主任が、調査研究事業の中で行ってきたチーム担任制を軸に不登校対策や子供が問いをもつ授業づくりについて、子供の声や教師の声を交えて報告をした。
  - ・市内の校長だけでなく、オンラインで各学校を繋ぎ、教頭や教務主任も視聴できるようにした。

## ウ 磐田市

### (7) 磐田市立豊田南小学校、磐田市立青城小学校、磐田市立豊田南中学校

---

## 1 調査研究内容

### (1) 調査研究テーマ

「たくましさを育てる」～達成経験・成功体験を積む～

### (2) 目指す子供の姿

本学府では、学府の教育目標を「地域に愛着をもち、未来をたくましく生きる子供の育成」と掲げ、「未来を切り拓く人材の育成と社会を生き抜く力を育む教育」の理念を土台として、一人ひとりの可能性を大切にしながら、すべての子供が安心して学び、成長できる環境づくりに努めている。その中で、困難や苦しい状況に直面してもくじけず、仲間と切磋琢磨しながら共に乗り越えていく「たくましさ」を育むことが重要であると考える。困難に挑む中で得られる達成感や満足感は、子供の「自己有用感」や「自己効力感」を高め、自信をもって自ら考え行動する「主体性」の育成にもつながる。すべての子供が認められ、支え合いながら自らの力を発揮し、生き生きと学ぶことのできる教育環境を通して、子供たちが未来を切り拓く力を身に付けていくことを目指していきたい。

### (3) 調査研究の重点

本学府の児童生徒の実情（自己肯定感・自尊感情の低さ、粘り強さや挑戦する力の課題、承認欲求が高く大人に判断を依存する傾向など）を踏まえ、「未来を切り拓く人材の育成と社会を生き抜く力」の実現を目指し、3グループ11部会に分かれ、以下の活動を推進する。

- ① 「主体的に学習に取り組む態度の育成」に焦点をあてた授業づくり  
（主体的な学びグループ）
- ② 子どもの居場所がある学級・学校・学府づくり（共に生きるグループ）
- ③ 子どもの心と体の成長を支える学級・学校・学府づくり（健やかな成長グループ）
- ④ 教職員の支援体制の強化

## 2 取組の状況

### (1) 学府全体での共通理解と意識改革

第1回合同研修会において学府グランドデザインとロードマップを共有し、目標を「たくましさの育成」とし、そのための手立てとして「達成経験・成功体験を積むこと」を全教職員で共通確認した【資料1、2】。その上で、3つのグループ・11部会に分かれ、児童生徒にどのような力を育てたいのか、各領域における「たくましさ」の姿の具体について協議を重ねてきた。

11部会では、授業づくり、キャリア教育、インクルーシブ教育、健康・安全、交流活動など各部会の専門性を生かしながら、「たくましさ」をそれぞれの領域でどのように育むのかを具体的な視点として整理した。例えば、主体的に学びを調整する力、失敗しても

挑戦し続ける意欲、他者との関わりを通じた自信の醸成、心身の健康を土台に困難へ向き合う姿など、実践に根ざした多様な視点が生まれた。それら 11 部会からの視点を統合した結果、今年度、本学府全体としての「たくましさ」について以下のように定義した【資料 3】。

本学府で目指す「たくましさ」とは、失敗や困難に対して前向きに向き合い、粘り強く挑戦し続ける力、自己決定や主体的な判断・行動を通じて、自信と達成感を積み重ねていく姿勢を指す。また、身体的・精神的な健康を土台に、他者と関わりながら自分を表現し、社会の中で自立して生きる力である。

今年度は、この「たくましさ」をより具体化するため、3グループ・11部会で話し合いを重ね、共通の視点を整理・共有したうえで、各部会が年間を見通した企画書を作成し【資料 4】、3校が連携して実践を進めた。それぞれの部会が、自らの領域に応じた「たくましさの視点」をもとに、創意工夫を凝らした活動を展開し、児童生徒が日々の学習や生活の中で達成感や成功体験を積み重ねられるよう組織的に取り組んだ。

## (2) 各部会を中心とした取り組み【資料 5】

### ①「主体的に学習に取り組む態度の育成」に焦点をあてた授業づくり

#### (主体的な学びグループ)

主体的な学びグループ（主体性を育む授業づくり、外国語教育、キャリア教育の推進、情報教育の 4 部会）が活動を推進した。

子どもが粘り強く取り組み、自ら学びを調整できる力を育てることを目指した。

#### 【授業づくりにおけるアプローチ】

授業づくりにおいては、導入で「考えたい問」を設定し、学び方を選択する場を工夫したことにより、児童生徒が成功体験を積めるような展開を意識する教職員が増えたことが大きな成果である。各部会の実践においても具体的な手応えが得られた。キャリア教育では、プレゼン活動を「選択・作成・修正・振り返り」のサイクルで探究的に進めることで、児童生徒の主体性や計画性の向上が確認された。外国語教育では、中学生が小学生向けに中学校紹介パンフレットを作成する活動を通じ、相手を意識することで記述への意欲が高まった。情報教育では、ICT を活用して小中学校間で成果物を共有することで、9年間の学びの接続が図られた。一方で、今後の課題は児童生徒に学びを委ねる際の教師の「コーディネート力」である。委ねることで目的を見失わないよう、教師が明確なゴールを持ち、適切なタイミングで指導と支援を使い分ける力が求められている。また、ICT 利用が単なる検索や AI のコピー&ペーストではなく、自分の言葉で再構築して思考を深めさせる指導を徹底していく必要がある。

#### 【学級づくりにおけるアプローチ】

学級づくりにおいて、児童生徒が安心して挑戦し、他者との関わりの中で自己有用感を高める環境整備が進んだ。例えば、中学校教員が小学 6 年生に合唱指導を行う小中一貫の取り組みは、歌唱力の向上だけでなく、中学校入学への不安緩和に大きく寄与した。また、キャリア教育でのプレゼン活動等を通じて自ら選択・発表する機会を設けたことは、自身の成長を実感し、友人の良さに気付くこととなり、学級内での自信や意欲の向上につながっている。今後は、単に成功を褒めるだけでなく、失敗を恐れずに挑戦できる雰囲気作りをし、「失敗が許容される場」を授業の中で作っていくことが重要である。

来年度に向けて、分からないときに自ら工夫できる学習方法などを子どもが教師と共に考え、多様な表現・発表を認め合う安心感のある集団づくりを継続していく。これらの取組を活かして、学府全体で「たくましさ」を育む共通の方向性をより深化させていきたい。

## ② 子供の居場所がある学級・学校・学府づくり（共に生きるグループ）

共に生きるグループ（豊かな心づくり、レジリエンス教育、地域・学府・子どもの交流、インクルーシブ教育の4部会）が活動を推進した。

学力差や生活経験の差、障害の有無などに関わらず誰もが学びの機会を奪われることがないよう教育環境を整え、地域と連携して多様性を認め合う温かい学年・学級づくりを目指した。

### 【授業づくりにおけるアプローチ】

授業づくりにおいては、インクルーシブ教育を基盤とした個々のニーズに寄り添う指導の工夫が成果を上げた。スモールステップでの課題設定を行い、小さな「できた」を丁寧に褒め、記録することで、成長を視覚的に実感させる手立てを講じた。この実践は、特に支援級の児童において集中力や意欲の向上をもたらすだけでなく、「できない」という思い込みから「失敗してもいい、次に分かるようになればいい」という自己肯定感の回復へとつながる変容が見られた。

また、地域・学府・子供の交流においては、中学生による挨拶運動の推奨動画作成や、小学校間でのリモート挨拶を実施した。こうした異校種間の交流は児童生徒に好評であり、「同じ学府の仲間」という実感を育む機会となった。今後の課題は、支援級での実践知を学府全体で共有し、ノウハウを広げるインクルーシブな教育を推進することである。また、交流活動をさらに発展させ、小学校側からの発信やこども園との連携深化も検討していく必要がある。

### 【学級づくりにおけるアプローチ】

学級づくりにおいては、上述した個への関わりを土台とし、豊かな心の育成とレジリエンス教育を推進した。体育行事等の運営を児童生徒に委ね、教師が介入を控えて「見守りと柔軟なサポート」に徹したことで、子供主体で企画した競技や表現運動が実現するなど、主体的に動ける環境が整いつつある。さらに、感謝の気持ちを可視化する「ありがとうの木」の掲示や、友達の頑張りを認める「たけのこポスト」の設置により、他者との関わりの中で「誰かの役に立っている」という自己有用感を得る経験を積むことができた。

一方で、活動を委ねる際、経験不足からくる子供たちのアイデアの不足や、やりたいことを見つけられなかったりする児童生徒への対応が課題



【中学生による挨拶運動とリモート挨拶】



【豊田南小のありがとうの木】



【青城小のたけのこポスト】

として残っている。来年度は教師と子供の思いのかい離を埋めるため、任せる範囲を丁寧にすり合わせるとともに、こうした取り組みを日常生活の中で習慣化させ、些細な成功体験を見逃さずに個を認めていく継続的な関わりを継続していきたい。

### ③ 子供の心と体の成長を支える学級・学校・学府づくり（健やかな成長グループ）

健やかな成長グループ（たくましい心身の育成、安全・防災教育、基本的な生活習慣・心の健康の3部会）が活動を推進した。自分に合った目標を設定する体力づくりや、実践的な安全教育および外部人材を活用した支援体制の多様化を通じて、子どもの健やかな成長を支えることを目指した。

#### 【授業づくりにおけるアプローチ】

授業づくりにおいては、想定外の状況に対応する判断力や、粘り強く課題に向き合う態度の育成に重点を置いた。安全・防災教育では、予告なしで「行方不明者の発生」や「放送機器の故障」、「廊下が通れなくなる」といったトラブルが発生する実践的訓練を実施し、イレギュラーな条件下での対応力を確かめた。これにより、職員間の点呼体制や封鎖状況下での情報共有の難しさといった組織的な課題が明確になった。また、豊田南小学校では、4年生が避難時に起こりうるトラブルを自ら想定し、解決策を盛り込んだ避難訓練を企画・実施した。児童が主体的に訓練に関わることで、防災を「自分ごと」として捉える意識の向上が見られた。

また、体育的な活動においては、単に結果を求めるだけでなく、個々の目標に挑戦する姿を重視した。今後は、こうした実践的な訓練を学府合同の引き渡し訓練へと発展させるとともに、授業内でもなわとびカード等の動機付けを早期に導入し、児童生徒が自ら目標を更新し続ける手立てを講じていく必要性が感じられた。

#### 【学級づくりにおけるアプローチ】

学級づくりにおいては、心身の健康を「挑戦の土台」と捉え、日常生活の質の向上と運動環境の整備に努めた。具体的には、グラウンドのライン常設や用具整備により、朝マラソン等の自発的な運動習慣を定着させた。生活習慣の面では、メディアコントロールデーの実施により、8割以上の児童生徒が生活リズムの改善を実感し、睡眠時間の確保や家族との交流増といった心の健康に直結する成果を得た。食育においても、家族でのリクエスト献立を通じて食への関心を高める試みを行った。今後の課題は、運動用具の使用ルールの徹底や、高学年・中学生の食育への参加率向上である。来年度は「健康の日」や栄養指導「みにやご」との連動を強化し、日常生活の中で心身を整える習慣をより一層定着させていく必要がある。

### ④ 教職員の支援体制の強化

教職員が多様な子供に対応できる資質向上を図りつつ、外部人材や環境整備を進めることで、教育の質の向上と働きやすさの実現を目指した。

#### ア 研修と意識改革

年3回の学府合同研修の際に、各校の授業公開を実施した。お互いに授業を見合うことで、小中9か年のつながりを意識した授業づくりを意識することができた。

学府合同保健委員会では、これまでのSCによるレジリエンス研修に加え、今年度は日本レジリエンスエデュケーション協会の古田友美氏を講師として、継続実施し、「達成経験、成功体験を積ませること」「子どものチャレンジを支えること」の重要性を教師

と保護者の間で再確認した。大人の関わりを「見守る・支える・導く」と捉え、成功体験を子どもに実感させるという指導の方向性を学府全体で共通理解した。【資料6】

#### イ 講師（文部科学省視学官：田村学氏）を招いての研修

文部科学省視学官・田村学氏による講話では、「主体的に学習に取り組む態度の育成」を実現するための視点が示され、特に「問いの質」と「対話の深まり」が学びを駆動させるポイントであると御指導をいただいた。

特に「対話の深まり」については、子供が思考したことをどのようにアウトプットするかについて言及され、「思考を話すことで広げ、書くことで学びとして刻んでいく」ことが重要であると共通理解することができた。

また、教師は活動を与えるのではなく、子供が自ら考え、主体的に選び取るための環境や条件を整えることが重要であることも見えてきた。学びを価値ある経験として積み重ねるためには、成功だけでなく試行錯誤を許容する授業づくりが不可欠であり、学府全体の授業改善の方向性をさらに明確にする契機となった【資料7】。



【田村学氏による講演会の様子】

#### ウ 外部人材・環境の整備

学習支援員・ICTアシスタント活用の充実、SCやSSW、外部人材の活用を進めていく。また、校内教育支援センターの整備を継続していく。

### 3 成果と課題

#### 【成果】

これまで学府として行ってきた3グループ11部会による取組を、「たくましさ」を軸に「成功体験・達成経験を積む」ことを中心にブラッシュアップした。この再構築により学府全体の教育活動で共通理解を図り、活動は異なるが目指す子供像を共有し一貫した活動が取り組めるようになった。特に、この共通理解のもと推進された学びづくりにおいては、子供が自ら問いをもち、学びを調整しながら学習に取り組もうとする場面が増加し、主体性・自己有能感の育成につながっている。また、環境・体制面の改善も進めた。小中連携による学びの接続、地域との協働による多様な交流やICT活用により学びの可視化や小中9か年を見通した指導・教材研究等に役立っている。さらに、田村学氏の研修を通じて授業改善のキーワードが明確化され、教職員の意識改革が促進された。【資料8】これにより、全学府で質の高い授業を追求していく基盤が確立した。「たくましさ」の育成については、児童生徒の自己評価も高いものを示している。【資料9】来年度も「たくましさ」を軸に「成功体験・達成経験を積む」ことを継続していきたい。【資料10・11】

#### 【課題】

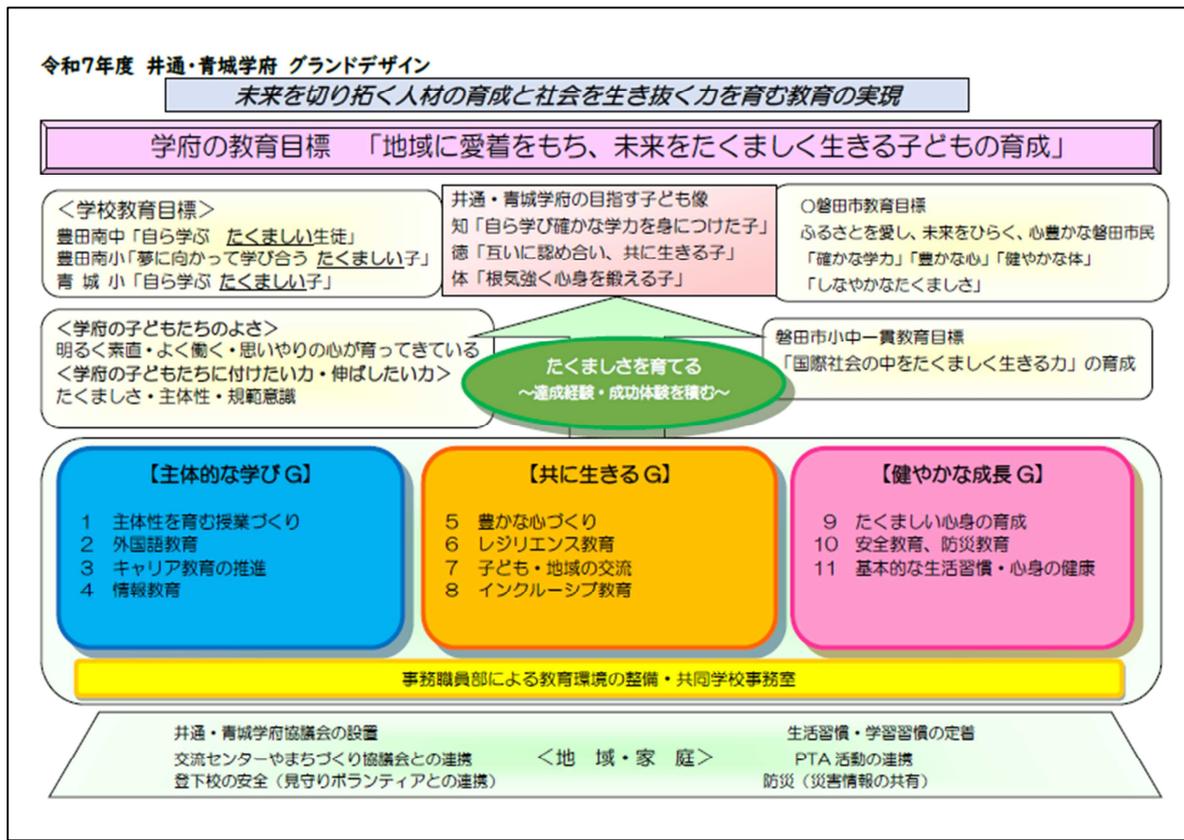
一方で、子供主体の学びを尊重するあまり、活動の目的やゴール設定が曖昧になりやすいこと、子供の実態差に応じた支援や「委ね方」の調整に課題が残っている。また、交流活動や安全教育などで、継続性・連続性をもった取組に発展させる仕組みが今後必要となることが見えてきた。ICT活用やインクルーシブ教育においても、個別最適な支援の質を高めるための共有体制の強化が求められる。

成功体験だけでなく、失敗を学びに転換する文化の定着も今後の大きな課題である。

「未来を切り拓く人材の育成と社会を生き抜く力を育む教育」の実現に向けた

授業づくり、学級づくり調査研究事業

資料1【井通・青城学府 グランドデザイン】



資料2【井通・青城学府 ロードマップ】

R7年度 井通・青城学府 ロードマップ（案）

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
主体的な学び	<p>【主体的な学び】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 主体性を育む授業づくり ○めざす多様な授業実践の共有 ○教材教具や思考ツールの効果的な活用 ○小中相互の授業公開</li> <li>2 基礎学力の定着・学習習慣の確立 ○学習の定着の共通理解 ○家庭学習の取組（家庭との連携・自主学習）</li> <li>3 キャリア教育の推進 ○職業体験における外部講師の活用 ○総合的な学習の時間における実践の共有 ○キャリアパスポートを使った学びの蓄積</li> <li>4 情報教育 ○デジタル・リテラシー教育の推進（判断力の育成） ○ロイノートでの学習者資料活用</li> </ol>	<p>【主体的な学び】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 主体性を育む授業づくり ○めざす多様な授業実践の共有（小中相互の授業公開） ○校内研修の情報共有</li> <li>2 外国語教育 ○9年間を見通した小中の連携 ○外国語教育の実践の共有（e-SPEAK含む）</li> <li>3 キャリア教育の推進 ○総合的な学習の時間における実践の共有 ○キャリアパスポートを使った学びの蓄積</li> <li>4 情報教育 ○デジタル・リテラシー教育の推進（判断力の育成） ○教材教具や思考ツールの効果的な活用</li> </ol>	<p>【主体的な学び】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 主体性を育む授業づくり ○めざす多様な授業実践の共有（小中相互の授業公開） ○校内研修の情報共有</li> <li>2 外国語教育 ○9年間を見通した小中の連携 ○外国語教育の実践の共有（e-SPEAK含む）</li> <li>3 キャリア教育の推進 ○総合的な学習の時間における実践の共有 ○効果的なプレゼン能力の育成</li> <li>4 情報教育 ○デジタル・リテラシー教育の推進（判断力の育成） ○教材教具や思考ツールの効果的な活用</li> </ol>	<p>【主体的な学び】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 主体性を育む授業づくり ○めざす多様な授業実践の共有（小中相互の授業公開） ○校内研修の情報共有</li> <li>2 外国語教育 ○9年間を見通した小中の連携 ○外国語教育の実践の共有（e-SPEAK含む）</li> <li>3 キャリア教育の推進 ○総合的な学習の時間における実践の共有 ○効果的なプレゼン能力の育成</li> <li>4 情報教育 ○デジタル・リテラシー教育の推進（判断力の育成） ○教材教具や思考ツールの効果的な活用</li> </ol>
共に生きる	<p>【共に生きる】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 豊かな心づくり ○生活のきまりの共通理解 ○2 外国語教育 ○不登校への対応・未然防止への取組「傾聴」 ○人間関係づくりプログラムやQ&amp;Aの活用 ○SOS（サポート）シート、SSW（サポートワークシート）との連携</li> <li>2 レジリエンス教育 ○保護者向けのレジリエンスに関する講座</li> <li>3 子ども・地域の交流 ○生徒会・児童会中心のあいさつ推進プロジェクト ○他校・小中の交流（ICTを使った新たな交流の構築） ○地域のひととの交流（職業体験、地域ボランティアの活用）</li> <li>4 インクルーシブ教育 ○多様性の尊重 ○学習生活の特性に応じた指導の共有 ○遠隔学習における特別支援教育 ○交流および共同学習の充実</li> </ol>	<p>【共に生きる】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5 豊かな心づくり ○特別活動における「達成経験・成功体験」の促進 ○地域のひととの交流（地域ボランティアの活用）</li> <li>6 レジリエンス教育 ○レジリエンスを高める取組 ○不登校への対応・未然防止への取組 ○ネット・エクスサイズ</li> <li>7 子ども・地域の交流 ○生徒会・児童会中心のあいさつ運動 ○他校・小中の交流</li> <li>8 インクルーシブ教育 ○学習生活の特性に応じた指導の共有 ○交流および共同学習の充実</li> </ol>	<p>【共に生きる】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5 豊かな心づくり ○特別活動における「達成経験・成功体験」の促進 ○励み合い活動の推進</li> <li>6 レジリエンス教育 ○レジリエンスを高める取組 ○ネット・エクスサイズ</li> <li>7 子ども・地域の交流 ○生徒会・児童会中心のあいさつ運動 ○他校・小中の交流</li> <li>8 インクルーシブ教育 ○学習生活の特性に応じた指導の共有 ○交流および共同学習の充実</li> </ol>	<p>【共に生きる】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5 豊かな心づくり ○特別活動における「達成経験・成功体験」の促進 ○励み合い活動の推進</li> <li>6 レジリエンス教育 ○レジリエンスを高める取組 ○ネット・エクスサイズ</li> <li>7 子ども・地域の交流 ○生徒会・児童会中心のあいさつ運動 ○他校・小中の交流</li> <li>8 インクルーシブ教育 ○学習生活の特性に応じた指導の共有 ○交流および共同学習の充実</li> </ol>
健やかな成長	<p>【健やかな成長】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9 たくましい心身の育成 ○体育授業・保健体育授業の充実 ○体力づくり ○体育的行事についての情報共有</li> <li>10 安全教育、防災教育 ○交通安全 ○防犯学習 ○防災対策 ○情報セキュリティ</li> <li>11 基本的な生活習慣・心身の健康 ○メディアコントロールデー、健康の日の実施 ○学習者資料活用委員会 ○「日々の天気」を体験してみよう（50の講話） ○感染症対策 ○家庭での生活習慣の確立</li> </ol>	<p>【健やかな成長】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9 たくましい心身の育成 ○9年間を見通した小中の連携 ○体育的行事（授業・行事）の情報共有</li> <li>10 安全教育、防災教育 ○主体性を育む防災教育の推進 ○安全意識を高める取組</li> <li>11 基本的な生活習慣・心身の健康 ○メディアコントロールデー、健康の日の実施 ○食育の推進</li> </ol>	<p>【健やかな成長】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9 たくましい心身の育成 ○9年間を見通した小中の連携 ○体育的行事（授業・行事）の情報共有</li> <li>10 安全教育、防災教育 ○防災教育の情報共有 ○安全意識を高める取組</li> <li>11 基本的な生活習慣・心身の健康 ○メディアコントロールデー、健康の日の実施 ○食育の推進</li> </ol>	<p>【健やかな成長】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9 たくましい心身の育成 ○9年間を見通した小中の連携 ○体育的行事（授業・行事）の情報共有</li> <li>10 安全教育、防災教育 ○防災教育の情報共有 ○安全意識を高める取組</li> <li>11 基本的な生活習慣・心身の健康 ○メディアコントロールデー、健康の日の実施 ○食育の推進</li> </ol>
地域	<p>井通・青城学府協議会の設置 交流センターやまちづくり協議会との連携 登下校の安全（見守りボランティアとの連携） 生活習慣・学習習慣の定着 PTA活動の連携 防災（災害情報の共有）</p>	<p>井通・青城学府協議会の設置 交流センターやまちづくり協議会との連携 登下校の安全（見守りボランティアとの連携） 生活習慣・学習習慣の定着 PTA活動の連携 防災（災害情報の共有）</p>	<p>井通・青城学府協議会の設置 交流センターやまちづくり協議会との連携 登下校の安全（見守りボランティアとの連携） 生活習慣・学習習慣の定着 PTA活動の連携 防災（災害情報の共有）</p>	<p>井通・青城学府協議会の設置 交流センターやまちづくり協議会との連携 登下校の安全（見守りボランティアとの連携） 生活習慣・学習習慣の定着 PTA活動の連携 防災（災害情報の共有）</p>
事務職員部	<p>業務による学校事務推進 -給・納、給費、所導税及び会計業務の効率化 ○学習者資料活用委員会 ○学習者資料活用委員会 -学習者資料活用委員会 -各種事務手続きの課題解決に向けた行合</p>	<p>業務による学校事務推進 -給・納、給費、所導税及び会計業務の効率化 ○学習者資料活用委員会 ○学習者資料活用委員会 -学習者資料活用委員会 -各種事務手続きの課題解決に向けた行合</p>	<p>業務による学校事務推進 -給・納、給費、所導税及び会計業務の効率化 ○学習者資料活用委員会 ○学習者資料活用委員会 -学習者資料活用委員会 -各種事務手続きの課題解決に向けた行合</p>	<p>業務による学校事務推進 -給・納、給費、所導税及び会計業務の効率化 ○学習者資料活用委員会 ○学習者資料活用委員会 -学習者資料活用委員会 -各種事務手続きの課題解決に向けた行合</p>

部会ごとの創意による活動の充実

目標達成のための手立てや組織の見直し

地域に愛着をもち、未来をたくましく生きる子どもの育成

未来を切り拓く人材の育成と社会を生き抜く力を育む教育の実現

資料3 【各部のたくましさのまとめ → 統合したまとめ】

「たくましさ」に関する各部会のまとめ

No.	部会名	たくましさの視点
1	主体性を育む授業づくり	粘り強く取り組み、自ら学びを調整する力を育てる。
2	外国語教育	失敗を恐れず、自分の思いや考えを伝えようとする姿勢。英語での表現に挑戦し続ける意欲。
3	キャリア教育の推進	失敗から学び、自己決定や責任ある行動をとる力。アウトプットを通じた自己成長。
4	情報教育	情報機器を主体的かつ適切に活用し、成功体験や改善を積み重ねていく姿勢。
5	豊かな心づくり	自分の気持ちを安心して表現し、人との関わりの中で前向きに行動できる力。
6	インクルーシブ教育部	スモールステップの成功体験を積み、自信を持って学びに参加する力。困難にも挑戦しようとする意欲。
7	地域・学府・子どもの交流	異年齢・異校種との交流を通して自分を表現し、関わる中で自信や達成感を育む。
8	レジリエンス教育	失敗を受け入れ、やり直す中での成功体験を通じた心の回復力。挑戦し続ける力。
9	たくましい心身の育成	できないことにも粘り強く取り組む姿勢結果を求めるだけでなく、できないことにも挑戦しようとする姿勢
10	安全防災教育	自分の命を自分で守る判断力と行動力。想定外の状況でも冷静に対応する実践的な力。
11	健やかな成長部	身体・心の健康を土台に、失敗や不安に向き合いながら挑戦し、経験を自分の力に変えていく力。



井通・青城学府で目指す「未来を切り拓く人材の育成と社会を生き抜く力を育む教育」

=「たくましさ」を育てる

- ・ **失敗や困難に対して前向きに向き合い、粘り強く挑戦し続ける力**
- ・ **自己決定や主体的な判断・行動を通じて、自信と達成感を積み重ねていく姿勢**
- ・ **身体的・精神的な健康を土台に、他者と関わりながら自分を表現し、社会の中で自立して生きる力**

資料4 【各部から出された企画書例】

第1回合同研修会 部会「企画書」 令和7年5月7日(水)

※部の枠を超えて意見を出していただいで構いません。  
※先生方の創意工夫を、2学期以降や次年度の計画に反映できたらと考えています。

部会名	レジリエンス教育
司会・記録者名	司会: 記録:
活動の目的	達成経験・成功体験を積むために
学府で取り組んでみたい活動	「ありがとう大作戦」 いろいろな場面で、互いに感謝を伝える
実施時期	それぞれの学校で実施しやすい形で、(帰りの会の中や、授業で交流活動をしたあと、など)
主たる担当教員(分掌)	レジリエンス教育 部会の職員から全体に投げ掛けを行う。
対象児童・生徒(学年等)	小中全児童・生徒
手順(簡潔に)	1. すでにこのような活動をしている青城小は、継続していく。 南小、南中の各学級ですでに実施しているところも同様。 2. 帰りの会の時間などを活用し、1日に1回程度、互いに感謝を伝え合ったり、良い行いに対する感謝を伝えたりする。 3. グループワークの終了時に互いに感謝の言葉を言ってから、グループを解散するようにするなど、学習環境の中でも無理なくこの活動を行っていく。
その他 ・配慮事項 ・準備物 ・考えられる課題 など	・できる範囲で取り組む。ただ、時間の確保はさほど難しくないのであろうし、準備物も特にないので、全体でやるとなったら確実に実施していきたい。

※企画を複数考えた部は、枠データをコピーして使ってください。

第1回合同研修会 部会「企画書」 令和7年5月7日(水)

※部の枠を超えて意見を出していただいで構いません。  
※先生方の創意工夫を、2学期以降や次年度の計画に反映できたらと考えています。

部会名	地域・学府・子どもの交流部
司会・記録者名	司会: 記録:
活動の目的	①達成経験・成功体験を積むため。 ②あいさつを通して、一日の気持ちの良いスタートが切れるという感覚を身に付けてもらうため。 ③学府の交流の活発化を図るため。
学府で取り組んでみたい活動	学府あいさつ運動の前日に、CMくらいの尺の動画を流す。
実施時期	令和7年9月10日(水)頃 ※令和7年9月11日(木)が第3回学府あいさつ運動
主たる担当教員(分掌)	豊田南中学校 (生徒会)
対象児童・生徒(学年等)	青城小学校・豊田南小学校
手順(簡潔に)	1 豊田南中学校生徒会の生徒が、夏休み期間を利用し、学府あいさつ運動の予告動画を撮影する。 2 豊田南中学校生徒会の生徒が、夏休み期間を利用し、撮影した動画を編集して動画を作る。 3 撮影した動画を、各小学校の先生方へデータを送る。 4 学府あいさつ運動の意義や良さについて、小学校の教員が児童へ伝え、動画を流す。 5 学府あいさつ運動を実施する。 6 児童へアンケートを実施し、フィードバックを得る。
その他 ・配慮事項 ・準備物 ・考えられる課題 など	①撮影した動画 ②アンケート( 구글フォーム)

※企画を複数考えた部は、枠データをコピーして使ってください。

資料5 【各部会を中心とした取り組み】

No.	部会名	主な活動内容
1	主体性を育む授業づくり	中学校教員による小学校授業、合唱交流、成功体験が得られる課題設計、めあての工夫、校内研修の体制整備
2	外国語教育	段階的な書く活動、中学生が小学生向けパンフを作成し交流
3	キャリア教育	プレゼン活動、選択→作成→修正→振り返りの学習サイクル
4	情報教育	ロイロノート活用、小中での成果共有
5	豊かな心づくり	行事運営の子ども主体化、自由進度学習の充実
6	インクルーシブ教育	個別支援、掲示活用、見通しの提示、環境調整
7	地域・学府・子ども交流	あいさつ運動、中学生徒会による動画、小学校間リモート交流、こども園との連携
8	レジリエンス教育	ありがとう活動、褒める文化の醸成
9	たくましい心身の育成	運動用具整備、ハードルを下げた成功体験の積み上げ
10	安全防災教育	予告なし避難訓練、障害物設置、機器停止想定訓練
11	健やかな成長部	メディアコントロールデー、リクエスト献立

資料6 【レジリエンス研修会のまとめ】

### 井通・青城学府ほけんだより

令和7年10月 井通・青城学府 小中学校保健室 NO.2

**令和7年度 井通・青城学府学校保健委員会 報告**

「ぼくなら・わたしなら きっとできる！」  
子どものレジリエンスを育てる3つのスイッチ

10月9日(木)に豊田南中・青城小・豊田南小のPTA役員の方や学校関係者が参加し、児童生徒の健康問題について研修・協議して健康づくりを推進することを目的とした「井通・青城学府学校保健委員会」を開催しました。今年度は、日本レジリエンスエデュケーション協会の古田友美様を講師として、レジリエンスについて学びました。

**チャレンジするとレジリエンスが高まる！**

レジリエンスとは？  
自分にとっての逆境や試練から立ち直る心(回復力・柔軟性・適応力)  
こんなイメージ…

おきあがりこぶし 水と太陽で元気になる草花 折れる前にしなる青竹 環境によって変化するカメレオン

チャレンジ苦手さん

チャレンジ得意さん

「成功」の反対は「失敗」ではなく「何もしない」こと！  
チャレンジの結果たとえ失敗しても、困難に対処する力、問題解決能力、粘り強さ、柔軟性、自己理解、ストレス対処能力、感謝、経験値…様々な力を高めることができる。  
次に同じような状況に直面した時にも役立つ。だからチャレンジすることが大事！

### チャレンジ得意さんへのスイッチ① サポート

目標を細かく(スモールステップ)するサポートをしよう！

もう休む！  
今日は行かない！

ちょっとはがんばろうって  
気持ちはないの？

子どもがすぐにあきらめてしまう場合、  
子どもへの声かけは？

「途中でいくのはどう？」  
「見学するのはどう？」

★親の意見は、質問とセットで伝える

<保護者の意見> 「私は〇〇だと思うよ」 + <問いかけ> 「あなたははどう思う？」

子どもの選択枝を増やす  
関わりも効果的

### チャレンジ得意さんへのスイッチ② 小さな一歩を後押しする(バランス)

**現状維持**  
あなたは  
あなたのままでいい

「現状維持」に偏り過ぎている時は、  
「一緒に新しいことをやってみる」  
過干渉・過保護は子どものチャンスを奪ってしまふ。  
イスマン 過干渉・過保護 ≠ 寄り添い  
小さな挑戦と一緒に試すことで「知らないことでも楽しめるかも」と考えられるようになる。

**変化成長**  
もっと頑張れ！  
UP!

「変化成長」に偏り過ぎている時は、  
「人との比較を避ける」  
人と比べないことで、自分らしさを大切に、前向きに色々なことに挑戦できるようになる。  
・努力を褒める  
「一生懸命取り組んだね」「よく頑張ったね」  
・個別の成長を認める  
「前回よりも早く走れたね」

バランスが大切

### チャレンジ得意さんへのスイッチ③ 受け止め(安心・信頼)

挑戦力を伸ばす受け止め力をアップしよう！

【子ども】  
今日、リレーの練習でバトン落としちゃって、みんなに見られてめちゃ恥かかった。

そっかあ、みんなの前で落としちゃって  
恥かかったんだね。  
でも、本番じゃなくてよかったじゃん！  
練習で気づけてラッキーだったね。

受け止め + 視点をかえる

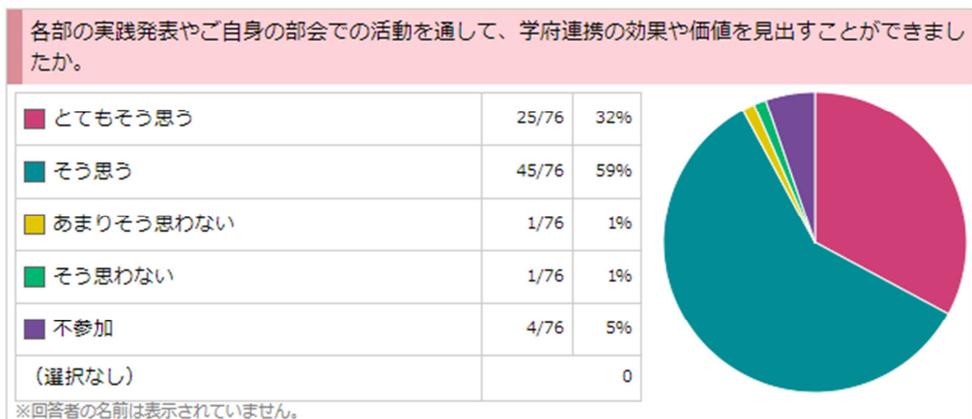
挑戦する力は、毎日の小さな「受け止め」で育つ！

資料7【講師（文部科学省視学官：田村学氏）を招いての研修の感想】

- ・「深い学び」や「協働的な学び」など、言葉としては知っていた概念が、具体的な事例を交えたお話によって自分の中でようやくつながりました。次期指導要領を見据えた理論を学べたことで、今後の教育の方向性が明確になり、不安が安心へと変わる貴重な機会となりました。
- ・「話し合いで広げ、書いて刻む」という言葉が非常に印象的でした。文字として具体的に多く書くことや、自分の言葉でアウトプットすることが思考の精緻化に不可欠だと痛感しました。自分が話しすぎていた反省を活かし、子どもたちが対話しながら課題解決に向かう授業デザインに早速取り組みたいです。
- ・理論は理解できても、実際に教材研究の時間をどう確保するか、高度な授業運営にどう対応するかといった不安も正直なところでした。「柔軟な教育課程」の実現には、個人の努力だけでなく学校全体の環境改善も必要だと感じました。しかし、お話を聴いて「また子供たちの前で授業がしたい」という原動力になりました。
- ・「教師が話しすぎない」「資質・能力を明確にもつ」といった、具体的な指導技術への気づきが多くありました。子供たちの思考の流れに沿った展開や、知識を関連付け・活用させるための手立てなど、自身のこれまでの授業スタイルを客観的に振り返り、より質の高い授業を目指すきっかけとなりました。

資料8【職員の意識（学府連携への効果や価値を見出している職員の割合）の変化】

令和6年度アンケート結果



令和7年度アンケート結果



資料9 【「たくましさ」についての児童の自己評価（各校の学校評価より）】

※肯定的な意見の割合

評価項目	学校	令和7年度前期	令和7年度後期
まわりの人や出来事を、しなやかに受け止めることができましたか。 (しなやかに・・・時と場合によって友だちの言動を受け入れたりことわったりすることができる。)	豊田南中	84	83
	青城小	88	92
	豊田南小	92	89

評価項目	学校	令和7年度前期	令和7年度後期
目標をもち、よりよくなろうと、あきらめずに取り組みましたか。	豊田南中	89	89
	青城小	91	92
	豊田南小	92	89

評価項目	学校	令和7年度前期	令和7年度後期
自分のことを大切にしていますか。	豊田南中	94	93
	青城小	94	93
	豊田南小	93	94

## (イ) 磐田市教育委員会

---

### 1 指定校への支援内容

指定校（井通・青城学府）が目指す「たくましさ」の育成に向け、教育委員会として「ビジョンの共有」「基盤整備」「専門的支援」の3軸で伴走支援を行った。

#### (1) 研究ビジョンの共有と方向性の統一

##### ① 学府一貫した研究方針の策定

3校合同での協議を通じ、目指す児童生徒像や研究方針を言語化。学府全体で「研究の自分事化」を図った。

##### ② 意識改革の促進

外部講師を招聘した授業研究会を開催。「たくましさ」を支える「主体的な学び」の本質について理論と実践の両面から研修し、小中学校全教職員の授業改善に対するマインドセットを刷新した。

#### (2) ICT活用による研修の可視化と効率化

##### ① リアルタイムな連携体制

グループチャット等のICTツールを導入。校種を越えた相談や情報共有を日常化し、課題解決の迅速化を図った。

##### ② リフレクションの共有

研修後の振り返りシートを教育委員会と各校でデジタル共有した。

##### ③ 知のプラットフォーム運用

指導助言や講演動画を教職員サイト「Edu-Link いわた」に集約。学府内にとどまらず、市内全域で「いつでも・どこでも」学べる環境を構築している。

#### (3) 専門的見地に基づく多角的な指導・支援

##### ① 指導主事による伴走支援

授業づくりに直接参画し、学習指導案の検討や事後研究会での専門的な指導助言を実施した。

##### ② 外部専門家との連携

各校のニーズに応じ、最先端の知見を持つ専門家を派遣した。

- ・ 専門家で構成されるサポートチームの派遣 塩田真吾准教授
- ・ 教職員のスキルアップを目的とした支援研修の実施 田村学主任視学官

### 2 研究成果等の周知と波及効果

本事業の成果を特定校の取り組みで終わらせず、市内全域の教育の質向上に還元している。

#### (1) 広域的な情報発信

2月開催の「磐田市小中一貫教育研修会」において、井通・青城学府の実践事例を紹介。次年度に向けた課題と展望を共有した。

(2) デジタルアーカイブの活用

「Edu-Link いわた」に特設ページを設け、研究の進捗や成果物を随時更新。市内全教職員がアクセス可能な状態にし、好事例の横展開を促進している。

3 その他（実践の深化と今後の展望）

<磐田市探究的な学び研究会の実践より>

学府内での学びの連続性が、児童生徒の資質・能力に確実な変容をもたらしている。

(1) 中学校（豊田南中）での実践

「より魅力ある市になるために」をテーマに、地域課題を自分事として捉え、解決策を『発表の場』で焦点化・深化させる連続的な学習を展開。他者との協働を通じ、自己成長のみならず「支え合い」の精神を醸成している。

(2) 小学校（豊田南小）での実践

「現実社会の課題」を扱う視点を取り入れたことで、従来の形式的な学習から脱却し、根拠に基づいた提案が可能となった。

(3) 小中連携の成果

小学校での実社会に根ざした経験が、中学校における高度な探究（予算等の現実的制約を考慮した活動）の強固な土台となっている。学府全体で、困難に立ち向かう「主体性」や「粘り強さ」といった、未来を生き抜く「たくましさ」の育成に寄与している。

学力向上推進事業  
学力向上推進協議会報告書  
～誰一人取り残さない教育の実現に向けて～

令和8年3月  
静岡県学力向上推進協議会